

【鶴岡市】インフルエンザワクチンを接種される方へ

インフルエンザの予防接種を実施するにあたって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、以下のインフルエンザワクチンに関する情報を必ずお読みください。

また、予防票は出来るだけ詳しくご記入ください。お子さんの場合は、健康状態をよく把握している保護者がご記入ください。

なお、インフルエンザ予防接種は任意接種であるため、接種するかどうかは、本人または保護者の希望と接種医の判断によります。

●市助成額

1回の接種につき1,500円〔13歳未満は1人につき2回、13歳以上は1回〕

※2回接種する場合の接種間隔は2～4週間(免疫効果を考慮すると4週間が望ましい)

※接種前の申請により、生活保護世帯は全額(医療機関の定める額)を助成

●助成期間 10月1日～1月31日

●ワクチンの効果

予防接種により、インフルエンザの感染予防や症状を軽くし、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

●ワクチンの種類

種 類	インフルエンザ HA ワクチン	経鼻弱毒生インフルエンザワクチン
対象者	生後6か月以上	2歳以上19歳未満
回 数	13歳未満:2回、13歳以上:1回	1回
接種方法	皮下接種	鼻腔内に噴霧
接種を受けることができない人	- 明らかに発熱のある人(通常 37.5℃以上) - 重篤な急性疾患にかかっている人 - 過去にインフルエンザHAワクチンの接種を受けて、アナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難、全身性の蕁麻疹などを伴う重症のアレルギー反応)を起こしたことがある人 - その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人	- 明らかに発熱のある人(通常 37.5℃以上) - 重篤な急性疾患にかかっている人 - 過去に経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの成分で、アナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難、全身性の蕁麻疹などを伴う重いアレルギー反応)を起こしたことがある人 - 明らかに免疫機能に異常のある疾患がある人、免疫抑制をきたす治療を受けている人 - 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している人 - 妊娠していることが明らかな人 - その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人
医師と相談が必要な人	- 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人 - 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 - 過去に予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人 - 薬の投与または食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人 - 今までにけいれんを起こしたことがある人 - 過去に免疫不全と診断されている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 - 妊娠の可能性のある人 - 間質性肺炎や気管支喘息などの呼吸器系疾患のある人	- ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など)などの過敏症を起こしたことがある人 - 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人 - 過去に予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人 - 今までにけいれんを起こしたことがある人 - 過去に免疫不全と診断されている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 - 重い喘息のある人または喘鳴の症状がある人 - 薬の服用または食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人 - 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 - 妊娠中または妊娠の可能性のある人(接種前1か月間避妊していない人)、授乳中の人 - サルチル酸系医薬品(アスピリンなど)、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服薬している人

種 類	インフルエンザ HA ワクチン	経鼻弱毒生インフルエンザワクチン
ワクチンの副反応	注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれる、小水疱などがみられることがあります。数日以内に自然に消失します。また発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、咳、嘔吐・嘔気、腹痛、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、筋力低下などが起こることがあります。過敏反応として、発疹、蕁麻疹、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみ、血管浮腫などが起こることもあります。その他に蜂巣炎、顔面神経麻痺などの麻痺、末梢性ニューロパチー、失神、血管迷走神経反応、ブドウ膜炎、振戦が現れることがあります。強い卵アレルギーのある方は強い過敏反応を生じる可能性がありますので接種前に必ず医師に申し出てください。 重大な副反応としては、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック、アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫など)、(2)急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)、(3)脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、(4)ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、(5)けいれん(熱性けいれんを含む)、(6)肝機能障害、黄疸、(7)喘息発作、(8)血小板減少性紫斑病、血小板減少、(9)血管炎(IgA 血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎など)、(10)間質性肺炎、(11)皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、急性汎発性発疹性膿疱症、(12)ネフローゼ症候群など。その他にも不明、不安な症状が現れたり、これらの疾患が疑われるような場合には、医療機関にご相談ください。	鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。 重い副反応としてショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など)や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん(熱性けいれんを含む)、ギラン・バレー症候群(手足に力がはいらない、しびれ、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど)、血管炎(発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑など)などが報告されています。
接種後の注意	1. 接種後30分間は、急な副反応(息苦しさ、蕁麻疹、咳など)が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。 2. 接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動は避けましょう。 3. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。 4. 万一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。	1. 接種後は、ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など)が起こることがありますので、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。 2. 接種当日は、過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状が出た場合は、すぐに医師の診察を受けてください。 3. 接種当日の入浴は差し支えありません。 4. 妊娠が可能な方は、接種後2か月間は妊娠をしないように注意しましょう。 5. 接種後1～2週間は乳児や重度の免疫不全の人との接触を可能な限り控えましょう。

●ワクチン接種後の注意

副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた方または家族が独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。詳しくは独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp/>)をご覧ください。

【お問合せ先】鶴岡市 健康課 予防接種担当(にこ♥ふる1階) Tel 35-0157 市外局番 0235	
・藤島庁舎 市民福祉課 Tel 64-5810 (直通)	・羽黒庁舎 市民福祉課 Tel 26-8774 (直通)
・櫛引庁舎 市民福祉課 Tel 57-2116 (直通)	・温海庁舎 市民福祉課 Tel 43-4613 (直通)
・朝日庁舎 地域づくり推進課 Tel 53-2115 (直通)	

※いずれも月～金曜日 8:30～17:15(祝日除く)